

第5章 対象事業に係る環境影響評価の項目

5-1 環境に影響を及ぼす行為・要因の把握

本事業の実施に伴い、事業予定地及びその周辺の環境に影響を及ぼすおそれがある行為・要因（以下、「影響要因」という。）について、事業特性を踏まえ把握した結果は、表1-5-1に示すとおりである。

表 1-5-1 影響要因の把握

影響要因の区分		影響を及ぼす内容
	細区分	
工事中	水面の埋立て	大気汚染物質の発生、悪臭の発生、水質・底質への影響、地下水への影響、地盤への影響、廃棄物等の発生、動植物の生息地・生育地の改変、人と自然との触れ合いの活動の場への影響
	建設機械の稼働	大気汚染物質の排出、騒音・振動の発生、温室効果ガスの排出、人と自然との触れ合いの活動の場への影響
	工事関係車両の走行	大気汚染物質の排出、騒音・振動の発生、交通安全への影響、温室効果ガスの排出
存在・供用時	埋立地の存在	水質の変化、動植物・生態系への影響、水象への影響

5-2 影響を受ける環境要素の抽出

事業特性を踏まえて抽出した影響要因（前掲表 1-5-1）に基づき、事業予定地及びその周辺の地域特性を勘案し、環境影響評価の対象とする環境要素を抽出して、環境影響評価の項目を選定した。

環境影響評価の項目として抽出した環境要素と影響要因の関連は、表 1-5-2 に示すとおりである。また、各環境要素について、環境影響評価の項目として抽出した理由は表 1-5-3 に、抽出しなかった理由は表 1-5-4 に示すとおりである。

なお、環境影響評価の対象とする環境要素は、大気質、悪臭、騒音、振動、水質・底質、地下水、地盤、安全性、廃棄物等、植物、動物、生態系、水循環、人と自然との触れ合いの活動の場及び温室効果ガス等の計 15 項目である。

表 1-5-2 環境影響評価の項目として抽出した環境要素と影響要因の関連

環境要素の区分	影響要因の区分	工 事 中			存在・ 供用時
	細区分	水 面 の 埋 立 て	建 設 機 械 の 稼 働	工 事 関 係 車 両 の 走 行	埋 立 地 の 存 在
A 大気質	二酸化窒素	-	●	●	-
	浮遊粒子状物質	-	●	●	-
	粉じん	●	-	-	-
B 悪 臭	特定悪臭物質及び 臭気指数	●	-	-	-
C 風 害	—	-	-	-	-
D 騒 音	建設作業騒音	-	●	-	-
	道路交通騒音	-	-	●	-
E 振 動	建設作業振動	-	●	-	-
	道路交通振動	-	-	●	-
F 低周波音	—	-	-	-	-
G 水質・底質	人の健康の保護に関する 項目及びダイオキシン類	●	-	-	-
	浮遊物質	●	-	-	-
	化学的酸素要求量	-	-	-	●
H 地下水	人の健康の保護に関する 項目及びダイオキシン類	●	-	-	-
I 土 壌	—	-	-	-	-
J 地 盤	地盤変位	●	-	-	-
K 地形・地質	—	-	-	-	-
L 日照阻害	—	-	-	-	-
M 電波障害	—	-	-	-	-
N 地域分断	—	-	-	-	-
O 安全性	交通安全	-	-	●	-
P 廃棄物等	廃棄物等	●	-	-	-
Q 植 物	重要な種・群落	●	-	-	●
R 動 物	重要な種 注目すべき生息地	●	-	-	●
S 生態系	地域を特徴づける生態系 に応じた注目種等	●	-	-	●
T 緑 地	—	-	-	-	-
U 水循環	水象	-	-	-	●
V 景 観	—	-	-	-	-
W 人と自然との触れ 合いの活動の場	—	●		-	-
X 文化財	—	-	-	-	-
Y 温室効果ガス等	温室効果ガス	-	●	●	-
Z ヒートアイランド 現象	—	-	-	-	-

表 1-5-3 環境影響評価の項目として抽出した理由

環境要素	時 期	抽 出 理 由
A 大気質	工事中	・水面の埋立てに伴い発生する粉じんによる大気質への影響が考えられる。 ・建設機械の稼働に伴い排出される二酸化窒素及び浮遊粒子状物質による大気質への影響が考えられる。 ・工事関係車両の走行に伴い排出される二酸化窒素及び浮遊粒子状物質による大気質への影響が考えられる。
B 悪 臭	工事中	・水面の埋立てに伴い発生する悪臭による影響が考えられる。
D 騒 音	工事中	・建設機械の稼働に伴い発生する騒音による影響が考えられる。 ・工事関係車両の走行に伴い発生する騒音による影響が考えられる。
E 振 動	工事中	・建設機械の稼働に伴い発生する振動による影響が考えられる。 ・工事関係車両の走行に伴い発生する振動による影響が考えられる。
G 水 質・ 底 質	工事中	・水面の埋立てに伴う水質・底質への影響が考えられる。
	存在時	・埋立地の存在による水質への影響が考えられる。
H 地下水	工事中	・水面の埋立てに伴う周辺の地下水への影響が考えられる。
J 地 盤	工事中	・水面の埋立てに伴う周辺の地盤変位が考えられる。
O 安全性	工事中	・工事関係車両の走行に伴う交通安全への影響が考えられる。
P 廃棄物等	工事中	・水面の埋立てに伴い発生する廃棄物等による影響が考えられる。
Q 植 物	工事中	・水面の埋立てに伴う重要な種及び群落への影響が考えられる。
	存在時	・埋立地の存在による重要な種及び群落への影響が考えられる。
R 動 物	工事中	・水面の埋立てに伴う重要な種及び注目すべき生息地への影響が考えられる。
	存在時	・埋立地の存在による重要な種及び注目すべき生息地への影響が考えられる。
S 生態系	工事中	・水面の埋立てに伴う地域を特徴づける生態系への影響が考えられる。
	存在時	・埋立地の存在による地域を特徴づける生態系への影響が考えられる。
U 水循環	存在時	・埋立地の存在による水象への影響が考えられる。
W 人と自然との触れ合いの活動の場	工事中	・水面の埋立てに伴い発生する粉じん等による人と自然との触れ合いの活動の場への影響が考えられる。 ・建設機械の稼働に伴い発生する騒音等による人と自然との触れ合いの活動の場への影響が考えられる。
Y 温室効果ガス等	工事中	・建設機械の稼働及び工事関係車両の走行等に伴い排出される温室効果ガスによる影響が考えられる。

表 1-5-4 環境影響評価の項目として抽出しなかった理由

環境要素	時 期	非 抽 出 理 由
A 大気質	供用時	・ 著しく大気汚染物質を排出する施設を設置しない。 ・ 周辺の車両交通量を著しく増加させる施設を設置しない。
B 悪 臭	供用時	・ 悪臭が発生する施設を設置しない。
C 風 害	存在時	・ 著しく風害が発生させる施設を設置しない。
D 騒 音	供用時	・ 周辺の車両交通量を著しく増加させる施設を設置しない。
E 振 動	供用時	・ 周辺の車両交通量を著しく増加させる施設を設置しない。
F 低周波音	工事中	・ 著しい低周波音が発生する建設機械を使用しない。
	供用時	・ 低周波音が発生する施設を設置しない。
H 地下水	供用時	・ 特定有害物質を使用する施設や、ダイオキシン類を排出する施設を設置しない。
I 土 壤	工事中	・ 公有水面の施工であり、陸地の掘削を行わない。
	供用時	・ 特定有害物質を使用する施設や、ダイオキシン類を排出する施設を設置しない。
J 地 盤	存在時	・ 大規模な建築物を設置しない。
K 地形・地質	工事中 存在時	・ 事業予定地に重要な地形・地質は存在しない。
L 日照障害	存在時	・ 著しく日照を障害する施設を設置しない。
M 電波障害	存在時	・ 著しく電波障害が発生させる施設を設置しない。
N 地域分断	工事中 存在時	・ 事業の実施により、地域の交流は促進されと考えられる。
O 安全性	供用時	・ 周辺の車両交通量を著しく増加させる施設を設置しない。
P 廃棄物等	供用時	・ 著しい量の廃棄物等が発生する施設を設置しない。
T 緑 地	存在・ 供用時	・ 埋立て後の土地利用計画は工事期間中に決定する予定であり、現時点では未定であるため。
V 景 観	存在・ 供用時	・ 埋立て後の土地利用計画は工事期間中に決定する予定であり、現時点では未定であるため。
W 人と自然との 触れ合い の活動の場	供用時	・ 埋立て後の土地利用計画は工事期間中に決定する予定であり、現時点では未定であるため。
X 文化財	工事中 存在時	・ 調査地域に文化財は存在しない。
Y 温室効果 ガス等	供用時	・ 埋立て後の土地利用計画は工事期間中に決定する予定であり、現時点では未定であるため。
Z ヒートアイ ランド現象	供用時	・ 埋立て後の土地利用計画は工事期間中に決定する予定であり、現時点では未定であるため。